

事務事業マネジメントシート(平成31年度実績と令和 2年度計画)

令和 2年 6月17日更新

事務事業名	水道事業維持管理事業 (管路)					<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4	生活環境の健康			所属部	水道局	課長名	澤田 修一
	施策	20	水の安定供給と排水の浄化			所属課	水道課	担当者名	中村 考智
	施策の柱	60	水の安定供給			所属班	水道班	(内線)	5244
予算科目	会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例		
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 31年度で終了 <input type="checkbox"/> 31年度から開始					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	水道事業(旧簡易水道事業を含む)において整備された配水施設(配水管等)の機能を保持し、安定的な配水を行なうための事業である。昭和37年度から着手した水道(簡易水道)事業により、清浄にして豊富かつ低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善を目指し、計画的に整備された配水施設(配水管等)を適切に維持管理するために事業を開始した。 水道使用者数は、本市の人口増加に伴い増加傾向にあることから、それに伴う給水装置工事申請(メーター支給等)及び工事完了(検査)事務も増加している。 また、配水施設(配水管等)の老朽化等により漏水が頻発しており、破損等の発生に応じて補修する応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査等も行なう事業である。
【業務の流れ】	①水道事業給水条例第4条(給水装置の新設等の申込み)の規定による給水装置工事申請受付(内容審査、メーター貸与等)及び完了後の工事台帳による検査事務を行う。 ②配水施設(配水管等)について、漏水等の発生による配水管及び給水引込管等の漏水等箇所の確認及びその修繕対応、漏水及び破損箇所を原形復旧するための現地確認、修繕等に係る工事等の発注、その他必要な契約・作業立会・結果報告・改善等の事務を行う(ただし、使用者(所有者)の責任により維持管理すべき部分を除く)。③漏水の復旧対策について、破損等の発生(目に見える漏水)に応じた応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査業務を行う(年1回、地域を定めて専門業者に委託する。契約・作業立会・結果報告・改善等の事務)。④緊急の漏水補修対応に備え資機材を備蓄し修繕に活用するため、資機材の調達(単価契約)事務及び在庫管理事務を行う。⑤水道配水管や給水装置台帳の適切に管理するために水道台帳システム導入しており、その適切な保守・更新等の事務を行う。
【主な予算費目】	(款)1.水道事業費用(項)1.営業費用(目)2.配水及び給水費(委託料、修繕費、材料費)
【意見や要望】	特になし。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

① 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 31年度実績(31年度に行った主な活動) (DO)	① 平成31(2019)年度は約610件の給水装置工事申請を受け完了分の検査を行った。②平成31(2019)年度は約360件の配水施設(配水管等)の漏水等対応事務を行った。③周期的に選定した地域を対象に漏水調査委託業務を行った。④資機材の備蓄管理のため単価契約を行い漏水修繕等に活用した。	①給水装置工事申請受付・検査事務 ②配水施設(配水管等)の漏水対応事務 ③漏水調査事務 ④資機材備蓄管理事務 ⑤水道台帳システムの保守・更新事務
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 件	予算の主な増減の理由
→ ア: 給水装置工事申請件数	件	
→ イ: 配水施設(配水管等)の漏水対応件数	件	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	配水施設(配水管等)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) km
		→ ア: 配水施設(配水管等)の延長
		→ イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	水道の配水機能が保持される。	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) 回
		→ ア: 漏水補修等により断水した回数
		→ イ:
*③成果指標設定の理由と 2年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
漏水補修等により断水した回数をみることで、施設の機能安定した配水ができていどうかを判断できると考えた。		0

各指標・総事業費の推移	単位	29年度	30年度	31年度	31年度	2年度	3年度	4年度	5年度	
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込	
① 活動指標	ア 件	737	655	500	608	600	600	600	600	
	イ 件	328	352	350	327	350	350	350	350	
② 対象指標	ア km	317	318	330	318	330	330	330	330	
	イ									
③ 成果指標	ア 回	16	17	50	12	50	50	50	50	
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	33,876	27,206	35,363	32,358	35,405	35,000	35,000
		繰入金	千円		728		284			
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	33,876	27,934	35,363	32,642	35,405	35,000	35,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	284	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	7	5	7	5	7	7	7
		延べ業務時間	時間	2,420	2,130	1,000	1,860	1,000	1,000	1,000
(B) 人件費計	千円	9,573	8,396	3,984	7,371	3,984	3,984	3,984		
トータルコスト(A)+(B)	千円	43,449	36,330	39,347	40,013	39,389	38,984	38,984		

事務事業名	水道事業維持管理事業（管路）	所属部	水道局	所属課	水道課
-------	----------------	-----	-----	-----	-----

## 2 評価の部（CHECK）

\*原則は31年度の事後評価、ただし複数年度事業は31年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①31年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 漏水補修等により断水した回数は目標を十分に達成できた。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことも向上の要因と考えられる。
	②2年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 配水本管の布設替えを計画的に実施しており、突発的な事情（大規模災害や地震等）の発生がない限り目標を達成する見込みはある。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 漏水補修等により断水する回数を0に近づけることが目標であり、向上の余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業は他になく、統廃合・連携の可能性はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の予算及び人員により補修等の維持管理を行っており、緊急に対応する必要性からも事業費の削減余地はない。ただし、補修等の発生頻度・規模によっては、結果として事業費が安価になる可能性はある。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の人数で維持管理を行っており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 利用者からの水道料金で運営しており、全使用者に受益機会があるため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 第三者に業務を委託することを検討する余地はあるが、使用者にとって真に信頼できる水道事業であり続ける必要があり、部分的な業務委託を含め、現時点で移行することは困難である。

## 3 評価結果の総括（CHECK）

漏水補修等により断水した回数は目標を達成した。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことが向上の要因と考えられる。しかし、漏水補修等による断水の回数は、最終的に0に近づけることが目標であり、それに向け鋭意努めていく。

## 4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

<p>(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（有効性改善）  <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（効率性改善） <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（公平性改善）  <input type="checkbox"/>現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策</p>																						